

平成26年度全国学力・学習状況調査の 分析結果と指導改善の方策がまとまりました

4月22日（火）に実施した「全国学力・学習状況調査」の仙台市立学校の調査結果については8月に発表しましたが、このたび「仙台市確かな学力研修委員会^{※1}」による分析結果と、それを基にした指導改善の方策がまとまりましたので発表します。

今後はこれらをもとに、各学校において自校の学力や生活・学習状況を踏まえた課題の改善に向けた取り組みを行い、確かな学力の育成に役立てていきます。

1 教科に関する調査分析結果と指導改善の方策（資料1参照）

(1) 分析結果について（教科別の全国平均正答率と市平均正答率の状況）

小・中学校ともに、全ての教科で全国平均正答率を上回っています。

(2) 指導改善の方策について

全国平均正答率を下回った問題を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。

(3) 今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での授業改善等の取り組みに生かします。

2 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査分析結果と指導改善の方策（資料2参照）

(1) 分析結果について

①地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があり、地域や社会をよくするために何をすべきか考えている児童生徒の割合が高くなっています。

②家で、自分で計画を立てて勉強したり、学校の授業の予習や復習をしたりしている児童生徒の割合が高くなっています。

③「総合的な学習の時間」において、自分で課題を立てて情報を集めて整理したり、調べたことを発表したりする学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が高くなっています。

④国語では、意見を発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している児童生徒の割合が高くなっていますが、算数・数学では、学習したことが将来、社会に出たときに役に立つと思っている児童生徒の割合が全国と同程度となっています。

(2) 指導改善の方策について

課題のあった内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。

(3) 今後の取り組みについて

分析結果から明らかになった課題や指導改善の方策については、各学校に通知し、学校での保護者等との連携した取り組みに生かします。また教育委員会でも、市PTA協議会と協力し広報に努めるとともに、「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト委員会^{※2}」でさらに分析を進めます。

*** 詳細は別添の資料をご覧ください**

※1 仙台市確かな学力研修委員会

仙台市教育委員会が事務局となり、宮城教育大学と連携しながら、校長、教頭、教諭を委員とし、仙台市標準学力検査および仙台市生活・学習状況調査結果等の分析を行います。

※2 学習意欲の科学研究に関するプロジェクト委員会

東北大学の川島隆太教授をはじめとする研究者と、市内小中学校の校長や仙台市教育委員会で構成し、学校現場での経験や実例、学習意欲に関するデータなどを基に、脳科学や認知心理学の観点から学習意欲について科学的に分析し、学習意欲に関した提言を行ったり、教育施策へ生かしたりしています。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策（概要）

※ 全国平均値を下回った内容を中心に分析し、指導改善の方策をまとめました。

＜小学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科		分析結果（課題）	指導改善の方策（概要）
国語	A問題	① 故事成語の意味と使い方	➡ 言葉の意味調べに加え、短文づくりなどを通して正しい使い方を定着させるよう指導する。
		② 複数の事柄を並列の関係で書くこと	➡ 並列の助詞の用法を理解させ、文と文とのつながりの明確さを意識させるよう指導する。
		③ 情景描写の効果を捉えること	➡ 文学的な文章の読み取りにおいて、情景描写における効果に気付かせるよう指導する。
	B問題	① 分かったことや疑問に思ったことをまとめて書くこと	➡ 色違いの付箋に書き分けることで、事実と感想、意見などと区別して捉えるよう指導する。
		② 立場を明確にして質問や意見をまとめること	➡ 話し手の主張をメモしながら聞き、メモを活用しながら質問や意見を述べさせるよう指導する。
		③ 詩の解釈における着眼点の違いを捉えること	➡ 共通点や相違点などの観点を明確にして読み、感想や解説等の文章を書かせるよう指導する。
算数	A問題	① 減法と乗法の混合した整数の計算	➡ 必要に応じて繰り返し指導する。
		② 作図に用いられている平行四辺形の性質	➡ 作図の手順だけでなく、図形の特徴と関連付けて理解できるよう指導する。
		③ 円の円周の長さの求め方	➡ 作業的な活動を取り入れ、直径が分かれば円周が求められることを理解できるよう指導する。
	B問題	① 繰り返し出現する事象から規則性を見いだすこと	➡ 数量の関係を図や数直線に表し、そこから規則性を見いださせるよう指導する。
		② 示された情報を基にして理由を記述すること	➡ 情報を関連付け、根拠となる事実や判断理由を的確に表現させるよう指導する。
		③ 小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述すること。	➡ 問題解決に用いる情報を書き出し、解決の筋道を立てて説明できるよう指導する。

＜中学校＞

A：主に「知識」に関する問題

B：主に「活用」に関する問題

教科		分析結果（課題）	指導改善の方策（概要）
国語	A問題	① 文脈に即した漢字の書き取り	➡ 漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に取り入れて指導する。
		② 目的に沿った互いの発言を検討して共通点や相違点を整理すること	➡ 共通点や相違点を整理する際に、対照的な内容を分かりやすく示すよう指導する。
		③ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと	➡ 文学的な文章の学習で類義語を取り上げたり、ことわざや慣用語を意図的に示す。
		④ 辞書を活用して語句の意味を適切に書くこと	➡ 作文では、限られた字数で、自分の考えを付け足したりしながら文章に表すよう指導する。
	B問題	① 複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること	➡ 事実と意見などを読み分け、まとまりに分ける学習活動を行う。
		② 資料から適切な情報を得て、伝えたいことが明確に伝わるように書くこと	➡ 目的や相手に応じて、取り上げる内容、示す順番などを考えて文章にするよう指導する。
数学	A問題	① 数量の大小関係を不等式に表わすこと	➡ 比べようとする数量に着目し、不等号を用いて数量の大小関係を適切に表せるように指導する。
		② 円錐の体積と円柱の体積の関係について	➡ 予想が正しいかどうかを、模型を用いた実験による測定を行って確かめる活動を取り入れる。
		③ 反比例について、グラフと表を関連付けて理解すること	➡ 表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるように指導する。
	B問題	① 式を適切に変形して、事柄が成り立つ理由を説明すること	➡ 文字式や言葉を用いて根拠を明らかにし、変形する意味を話し合わせる場面を設定する。
		② 証明の課程で見いだした事柄や証明された事柄を用いること	➡ 与えられた性質を証明するだけでなく、新たな性質を見いだすことができるように指導する。
		③ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉えて説明すること	➡ 起こり得る場合を分類整理し、起こりやすさの傾向を捉え、的確に説明する場面を設定する。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【小学校 国語A問題 ー主として「知識」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
74.2	73.3	72.9	76.7	+3.8

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	72.4	72.2	-0.2
書く能力	72.2	73.7	+1.5
読む能力	68.5	72.2	+3.7
言語についての知識・理解・技能	73.7	77.9	+4.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	72.4	72.2	-0.2
書くこと	72.2	73.7	+1.5
読むこと	68.5	72.2	+3.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.7	77.9	+4.2

【国語A：○成果と●課題について】

- ① 漢字を読む問題全3問（「標識を見る」，「街灯がつく」，「勢いよく走り出す」）の正答率は、それぞれ94.2%、93.7%、80.0%でいずれも全国を2.5、6.7、5.6ポイント上回っている。また、漢字を書く問題では、全3問のうち一つの問題（「さらを運ぶ」）が97.8%で全国と同じであるが、他の2問（「勝利をいわう」，「かぜをよぼうする」）の正答率は、63.3%、83.7%で全国を4.0、6.3ポイント上回っている。
過去の調査との同一問題との比較において、「勢い」は78.0%（H20）から80.0%へ、「よぼう」は64.7%（H20）から83.7%へと正答率が高くなっている。
- ② 仮定の表現として、適切なものを捉える問題の正答率は84.7%で全国を1.6ポイント上回っている。
- ① 故事成語の意味と使い方を理解できているかどうかを見る問題（「五十歩百歩」，「百聞は一見にしかず」）の正答率は64.0%、60.6%で全国を8.2、10.7ポイント上回ってはいるが、指導の充実が求められる。
- ② 複数の事柄を並列の関係で書く問題の正答率は76.0%で全国を1.1ポイント上回っているが、無解答率が6.5%と高くなっている。
- ③ 情景描写の効果を捉える問題の正答率は60.3%で全国を1.6ポイント上回っているが、心情の間接的表現における指導の充実が求められる。

指導改善の方策

- ① ことわざや慣用句、故事成語の意味を理解し、実生活の中で起きる出来事などを故事成語などで表すことは言語生活を豊かにする上で大切である。そのためには、言葉の意味を調べることに加え、短文づくりなどを通して正しい使い方を定着させることが必要である。その上で、実生活の中で意図的に活用する機会を設けるなど計画的に指導することが大切である。
- ② 文や文章の構成を整えて書くためには、語句と語句との係り方や照応の仕方に気付き、文と文とのつながりの明確さを意識することが重要である。そのためには、ねじれ文を書き換えるなどの具体的な推敲指導や、下書きと推敲後の文章を比べる工夫により筋道の通った文章を実感させる指導が今後も大切である。
また、並列の助詞（「と」，「や」，「～たり，～たり」，「また」）の用法の原則や仮定表現（「ば」，「なら」，「たら」など）を用いた文の比較を通じた用法の理解における指導も大切である。
- ③ 物語を創作するときは、構成や表現の効果などについて工夫することが大切となってくる。指導に当たっては、物語などの文学的な文章を読み取る授業において、行動や表情、会話文、情景描写などの理解だけでなく、その工夫における効果に気付かせることが大切である。また、「自分で使ってみたい表現」などとして文章の抜粋を記録させ、自分の表現に活用させることも一つの指導として考えられる。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【小学校 国語B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
54.3	56.3	55.5	57.1	+1.6

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	34.4	35.8	+1.4
話す・聞く能力	51.2	53.2	+2.0
書く能力	34.4	35.8	+1.4
読む能力	57.3	58.8	+1.5
言語についての知識・理解・技能	69.8	71.4	+1.6

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	51.2	53.2	+2.0
書くこと	34.4	35.8	+1.4
読むこと	57.3	58.8	+1.5
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.8	71.4	+1.6

〔国語B：○成果と●課題について〕

- ① 付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える問題の正答率は74.4%であり、全国を2.5ポイント上回っている。
- ② 質問の意図を捉える問題の正答率は64.9%で全国を4.7ポイント上回っている。
- ③ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える二つの問題の正答率は、それぞれ82.3%、60.5%で全国を1.9、1.3ポイント上回っている。
- ① 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く問題の正答率は28.5%で全国を1.6ポイント上回っているが、低い正答率である。
- ② 立場を明確にして、質問や意見を述べる問題の正答率は30.4%で全国を2.1ポイント上回っているが、低い正答率である。また、相手の発言内容を引用せずに解答した児童の割合が54.5%と高くなっている。
- ③ 詩の解釈における着眼点の違いを捉える問題、二つの詩を比べて読み自分の考えを書く問題の正答率は49.5%、48.6%で全国と大きな差はないが、無解答率が17.6%、24.3%と高くなっている。

指導改善の方策

- ① 「B書くこと」と「C読むこと」の言語活動を組み合わせ、学習の過程が児童自身にとっての問題解決の過程となるような言語活動を多く取り入れ、疑問に思ったことや分かったことなどを関連付けながら自分の考えを広げたり深めたりする指導が今後も大切である。
 また、本などから得た情報を整理・分類する方法を指導したり、一つの文を複数の文に、複数の文から一つの文にしたりする指導も大切である。その際、疑問に思ったこと、分かったことなどを色違いの付箋に書き分けることで、事実と感想、意見などを区別して捉えることができるようにする指導が大切である。
- ② 自分と違う立場の話し手に対して質問や意見を述べる場合は、話し手の主張をしっかりと聞くとともに自分の立場に立って問題を焦点化し、相手の発表内容に簡潔に触れてから行うことが大切である。そのためには、話し手の主張を簡単にメモしながら聞き、そのメモを活用して質問や意見を述べる指導が大切である。
- ③ 詩や物語などを比べて読む場合、共通点、相違点、疑問点、表現や構成の工夫、作者の意図などの観点を明確にすることが重要である。その上で、感想や解説等の文章を書かせる指導が大切である。また、一人一人の感じ方に違いがあることを理解し、自分の考えを広げ深めるために、書いたものを交流させる指導も大切である。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【小学校 算数A問題 ー主として「知識」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
77.3	78.3	78.1	79.2	+1.1

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	—	—	—
数量や図形についての技能	87.9	87.9	0.0
数量や図形についての知識・理解	69.5	71.5	+2.0

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	81.8	83.5	+1.7
量と測定	74.8	77.3	+2.5
図形	71.8	71.3	-0.5
数量関係	81.3	80.9	-0.4

【算数A：○成果と●課題について】

- ① 9-0.8の計算をする問題の正答率は86.8%で、全国を3ポイント上回っている。
 - ② 割合が1より小さい(0.4倍)場合でも、(基準量)×(割合)で比較量が求められることを理解しているかどうかをみる問題の正答率は58.8%で、全国を4.7ポイント上回っている。
 - ③ 単位量当たりの大きさの求め方を理解しているかどうかをみる問題の正答率は64.6%で、全国を3.8ポイント上回っている。
- ① 100-20×4の計算をする問題の正答率は79.7%で、全国を1.2ポイント下回っている。
 - ② コンパスを使った平行四辺形のかき方について、用いられている平行四辺形の特徴を選ぶ問題の正答率は49.3%で、今回の調査の設問で正答率が最も低く、全国を2.7ポイント下回っている。
 - ③ 直径6cmの円の円周を求める問題の正答率は82.8%で、全国を1.1ポイント下回っている。

指導改善の方策

- ① 「320」と解答している児童の割合が16.8%である。四則混合の式や()を用いた式の計算は、基礎的・基本的な計算技能なので、当該以降の学年においても必要に応じて繰り返し練習の機会を設け、習熟を図ることが大切である。
- ② 「向かい合っている辺が平行である」と解答している児童の割合が26.2%である。作図の手順を形式的に指導するだけでなく、図形の特徴と関連付けて理解できるようにすることが大切である。例えば、既習の二等辺三角形の作図について振り返り、コンパスで等しい長さを測り取り、移していることの意味を平行四辺形の特徴と関連させて理解できるようにする指導が大切である。
- ③ 様々な大きさの円について、円周の直径に対する割合を調べる活動を通して円周率が一定であることを帰納的に見いだせるような活動を取り入れ、直径が分かれば円周が求められることを理解できるようにする指導が大切である。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【小学校 算数B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
56.8	59.2	58.2	59.7	+1.5

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
算数への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な考え方	47.8	49.1	+1.3
数量や図形についての技能	76.2	77.4	+1.2
数量や図形についての知識・理解	54.8	57.5	+2.7

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と計算	61.3	62.5	+1.2
量と測定	56.5	58.3	+1.8
図形	65.7	68.9	+3.2
数量関係	56.2	57.6	+1.4

【算数B：○成果と●課題について】

- ① 全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができるかどうかをみる問題の正答率は67.1%で、全国を5.6ポイント上回っている。
 - ② 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できるかどうかをみる問題の正答率は64.3%で、全国を3.8ポイント上回っている。
 - ③ 示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができるかどうかをみる問題の正答率は68.9%で、全国を3.2ポイント上回っている。
- ① 繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができるかどうかをみる問題の正答率は61.0%で、全国を1.2ポイント下回っている。
 - ② 示された情報を基に、必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できるかどうかをみる問題の正答率は32.0%で全国を1.4ポイント上回っているが、最も低い正答率である。
 - ③ 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を言葉や式を用いて記述できるかどうかをみる問題の正答率は34.1%で全国を1.6ポイント上回っているが、低い正答率であり無解答率は14.3%と高くなっている。

指導改善の方策

- ① 「10小節目」と解答している児童の割合は19.2%である。事象の中にある数量の関係を図や数直線に表し、その中にある規則性を見出すことで、物事を合理的、能率的に解決できるよさを実感できるような活動を取り入れることが大切である。
- ② 「スープを分けることができるが、残る(正答)」を選択したが、「選んだわけを言葉と数を使って書きましよう」という問いに対しての説明が不足していたり無解答、誤答だったりしている児童の割合が49.2%となっている。問題を解決した過程を他者に説明する際には、問題から必要な情報を選択するとともに、情報を関連付けて、根拠となる事実や判断の理由を的確に表現することが大切である。さらに、判断した根拠を説明する際には、説明として何が不足しているのかについて考え、問題に応じた説明へと練り上げていく活動を取り入れることが考えられる。
- ③ 妹の身長から「一(ひと)あた」の長さを求める式(40×0.1)などのみを解答している児童の割合は29.8%である。問題解決に用いる情報をすべて書きだし、それらを組み合わせて解決の筋道を立て、答えを見積もり、その上で求め方を言葉や式を使って説明できるようにすることが大切である。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【中学校 国語A問題 ー主として「知識」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
80.3	79.5	79.4	82.9	+3.5

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	—	—	—
話す・聞く能力	72.3	77.8	+5.5
書く能力	83.4	86.6	+3.2
読む能力	82.9	86.5	+3.6
言語についての知識・理解・技能	78.7	81.7	+3.0

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	72.3	77.8	+5.5
書くこと	83.4	86.6	+3.2
読むこと	82.9	86.5	+3.6
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.7	81.7	+3.0

【国語A：○成果と●課題について】

- ① 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題では7問中6問の正答率が高く、そのすべてが全国を上回っている。また、すべての問題において無解答率が1.0%を下回っている。
- ② 集めた材料を分類するなどして整理する問題の正答率は95.2%で全国を2.6ポイント上回っている。
- ① 文脈に即して漢字を正しく書く問題において「計画を行動にウツす」の正答率は77.8%で全国を4.2ポイント上回っているものの、他の2問(「地域の人をショウタイする」「円のハンケイを求める」)の正答率は57.8%、58.9%と低く、全国とほぼ同じである。
- ② 目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する問題の正答率は62.8%で全国を8.5ポイント上回っているが、共通点や相違点を整理することに課題がある。
- ③ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う問題のうち、「急がば回れ」を選択する問題の正答率は63.4%で全国を4.2ポイント上回ってはいるが、ことわざの意味や使い方を理解することに課題がある。
- ④ 辞書を活用して語句の意味を適切に書く問題の正答率は66.7%で全国を6.8ポイント上回っているが、複数の語の意味を的確に合わせて理解することに課題がある。

指導改善の方策

- ① 漢字は、一字一字を正確に読み書きできるようにすることに加え、文脈の中で適切に使えるようにすることが大切である。そのためには、既習の漢字を積極的に使用したり、知らない熟語の意味をその漢字の訓読みから推測したりする機会を意図的に授業に取り入れることが大切である。
- ② 複数の案から一つに絞り込む話し合いを行う際には、それぞれの意見の共通点や相違点を整理する必要がある。特に相違点を明確にすることは、議論を焦点化する上で重要である。そのため、板書等で整理する際には、意見の内容を簡潔に示すだけでなく、対照的な内容を分かりやすく示すように指導することが大切である。
- ③ 語感を磨き語彙を豊かにすることは、日常の言語生活に潤いをもたせる上で重要である。そのためには、文学的文章の学習において類義語を取り上げたり、ことわざや慣用句を意図的に示したりすることが大切である。
- ④ 語句の指導に当たっては、日頃の学習の中で必要に応じて辞書を利用することを習慣付けるように指導することが重要である。多義的な語句については、複数の意味や用法の中から文脈にあったものを選んだり、見出し語にない語句について語句を分けて調べたりするなどの学習を積み重ねるように指導することが大切である。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【中学校 国語B問題 ー主として「活用」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率（％）】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
52.0	51.5	51.0	56.1	+5.1

【観点別平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
国語への関心・意欲・態度	41.0	47.6	+6.6
話す・聞く能力	—	—	—
書く能力	41.0	47.6	+6.6
読む能力	49.2	54.5	+5.3
言語についての知識・理解・技能	56.8	62.0	+5.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率（％）】

区分	全国	仙台	差
話すこと・聞くこと	—	—	—
書くこと	41.0	47.6	+6.6
読むこと	49.2	54.5	+5.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.8	62.0	+5.2

【国語B：○成果と●課題について】

- ① 落語に登場する人物の言動意味を考え、その姿を想像する問題の正答率は70.2%で全国を3.0ポイント上回っている。
- ② 表現の技法についての理解をみる問題の正答率は68.5%で全国を3.2ポイント上回っている。
- ③ 文章に表れているものの見方について、自分の考えをもつことができるかどうかをみる問題の正答率は67.8%で全国を8.9ポイント上回っている。
- ① 複数の資料と比較して読み、要旨を捉える問題の正答率は31.5%で全国を0.1ポイント上回っているが、低い正答率である。
- ② 資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く問題の正答率は33.6%で全国を5.2ポイント上回っているが、低い正答率であり無解答率は12.8%と高くなっている。

指導改善の方策

- ① 説明的な文章の学習において、中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、段落ごとに内容を捉えたり、大きな意味のまとまりに分けて文章全体における役割を明らかにしたりする学習活動が大切である。併せて、図表が文章のどの部分と関連しているのかを確認して、筆者の伝えたい内容をよりの確に読み取る指導も大切である。
- ② 伝えたい事柄を整理して分かりやすく書く力を身に付けるためには、目的や相手に応じて、取り上げる内容、それらを示す順番などを考え、よりよい文章にするように指導することが大切である。そのためには、複数の情報を正確に捉え整理・分類すること、推敲（主語と述語の関係、並立の言葉の使い方、一文の長さ、女子の使い方など）の仕方などの指導が大切である。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【中学校 数学A問題 ー主として「知識」に関する問題についてー】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
65.6	67.7	67.4	70.6	+3.2

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	—	—	—
数量的な技能	68.2	70.9	+2.7
数量や図形などについての知識・理解	66.8	70.3	+3.5

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	77.4	79.9	+2.5
図形	66.4	69.8	+3.4
関数	58.0	61.6	+3.6
資料の活用	59.1	63.0	+3.9

【数学A：○成果と●課題について】

- ① 連立二元一次方程式をつかって問題を解決するために、着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目して式をつくることのできるかどうかをみる問題の正答率は80.6%で、全国を6.5ポイント上回っている。
 - ② 証明のための構想や方針の必要性和意味を理解しているかどうかをみる問題の正答率は82.1%で、全国を6.3ポイント上回っている。
 - ③ 度数分布表から相対度数を求めることができるかどうかをみる問題の正答率は51.4%で、全国を8.7ポイント上回っている。
- ① 数量の大小関係を不等式に表すことができるかどうかをみる問題の正答率は49.6%で、全国を4.4ポイント上回っているが、低い正答率である。
 - ② 円錐の体積を、底面が合同で高さが等しい円柱の体積との関係で理解しているかどうかをみる問題の正答率は40.4%で、全国を1.7ポイント上回っているが、最も低い正答率である。
 - ③ 反比例について、グラフと表を関連付けて理解しているかどうかをみる問題の正答率は45.7%で、全国と同等である。

指導改善の方策

- ① 「 $x < 120$ 」と解答している生徒の割合は17.1%である。「 x は120より大きいか等しい」「 x は120より小さいか等しい」ことを不等号を用いて適切に「 $x \geq 120$ 」「 $x \leq 120$ 」と表せるように、「 $=$ 、 $>$ 、 $<$ 」と関連付けて理解できるようにすることが大切である。
- ② 「円錐の容器2個分」と解答している生徒の割合が35.3%である。底面の直径と高さが等しい円柱の体積と、底面が円柱の底面と合同で高さが円柱の高さと等しい円錐の体積の関係を予想し、予想が正しいかどうか模型を用いた実験による測定で確かめることで、「実感を伴った理解」ができるようにすることが大切である。また、円柱にぴったり入る球も加え、円柱、球、円錐の体積の比が3:2:1になっていることを実験や公式から捉えると理解が深まると考えられる。
- ③ 反比例のグラフから比例定数の符号が判断できることや、比例定数は表の対応する x の値と y の値の積になることを確認するとともに、比例定数の符号だけを変えた表をついたり、そのグラフをかいたりして表、式、グラフを相互に関連付けて理解できるようにすることが大切である。

平成26年度全国学力・学習状況調査分析結果と指導改善の方策

【中学校 数学B問題 一主として「活用」に関する問題について】

分析結果

※ 平均正答率は全て公立学校の値
 ※ 「大都市」とは政令指定都市と東京23区

【平均正答率 (%)】

宮城県	大都市	全国	仙台市	全国との差
59.4	60.9	59.8	64.6	+4.8

【観点別平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数学への関心・意欲・態度	—	—	—
数学的な見方や考え方	57.9	62.6	+4.7
数学的な技能	—	—	—
数量や図形などについての知識・理解	87.5	91.7	+4.2

【学習指導要領の領域等の平均正答率 (%)】

区分	全国	仙台	差
数と式	56.9	60.7	+3.8
図形	58.6	62.4	+3.8
関数	64.4	70.6	+6.2
資料の活用	55.9	60.6	+4.7

【数学B：○成果と●課題について】

- ① 事象を理想化・単純化して問題解決した結果を、事象に即して解釈し、二つの数量の関係を数学的に説明でできるかどうかをみる問題の正答率は69.7%で、全国を6.8ポイント上回っている。また、無解答率は24.5%で、全国を5.6ポイント下回っている。
- ② 与えられたグラフを事象に即して解釈することができるかどうかをみる問題の正答率は70.2%で、全国を7.5ポイント上回っている。
- ③ グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を数学的に説明することができるかどうかをみる問題の正答率は36.8%で、全国を6.9ポイント上回っている。
- ① 事柄が成り立つ理由を説明する場面において、説明の筋道を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができるかどうかをみる問題の正答率は61.1%で、全国を0.1ポイント下回っている。
- ② 付加された条件の下で証明を振り返って考え、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄を用いることができるかどうかをみる問題の正答率は25.5%で全国を2.2ポイント上回っているが、低い正答率である。また、無解答率は25.7%と高くなっている。
- ③ 不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる問題の正答率は36.6%で全国を4.5ポイント上回っているが、低い正答率である。

指導改善の方策

- ① 「 $4mn$ 」と解答している生徒の割合は16.9%である。例えば、「二つの偶数の和は、偶数になる」ことを文字を使って説明する場合、結論を導くために何を明らかにすべきかを見通した上で、 m 、 n を整数とすると $2m$ 、 $2n$ の表す意味、 $m+n$ の表す意味、 $2m+2n$ を $2(m+n)$ に変形する意味について話し合う場面を設定することが考えられる。
- ② 前問（図形の性質を証明する問題）の正答率は45.0%である。前問に新しい条件が付加された場合、図を条件に合うようにかき直すとともに、証明を振り返り、証明の過程で見いだした事柄や証明された事柄に着目し、新たな性質を見いだすことができるかどうかについて考える場面を設定することが考えられる。
- ③ 「1点より2点がとりやすいとはいえない」と解答している生徒の割合は27.0%である。不確定な事象の起こりやすさを予想し、それを確かめる方法として実際に試行を多数回繰り返し、データを収集して求めた相対度数を用いる方法（統計的確率）や、樹形図を利用して落ちや重なりがないように起こりうる全ての場合を数え上げて確率を求める方法（数学的確率）があることを理解させることが必要である。また、不確定な事象の起こりやすさの理由を、確率を用いて簡潔にわかりやすく説明する活動を充実することが大切である。

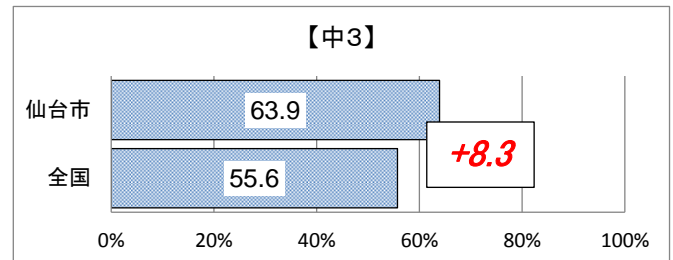
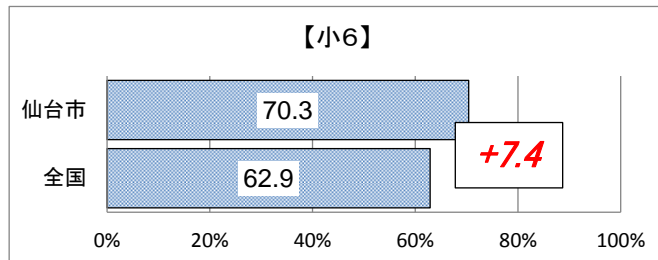
平成26年度全国学力・学習状況調査
児童生徒質問紙調査の分析結果と指導改善の方策(概要)

※全国との比較で、大きな違いがあった主な項目をまとめた。
(グラフの数値は、当てはまる、どちらかといえば当てはまるを合わせた割合)

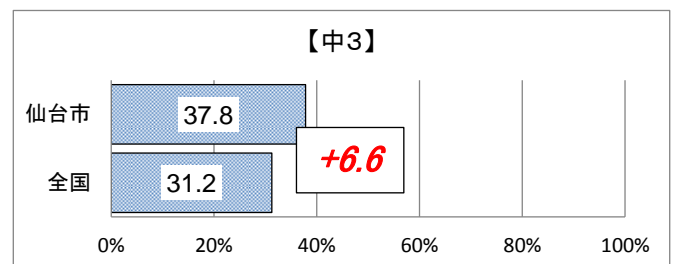
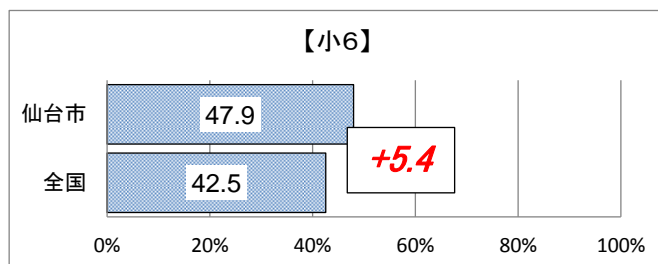
【分析結果 1】

地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があり、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている児童生徒の割合が高い。

30. 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



31. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある



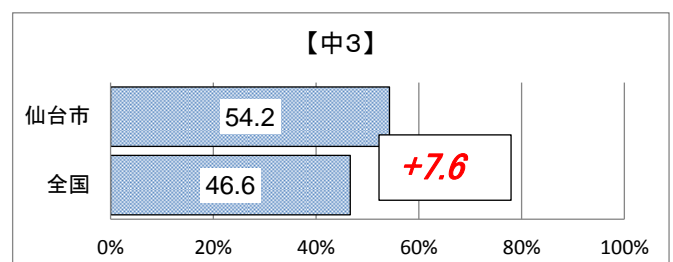
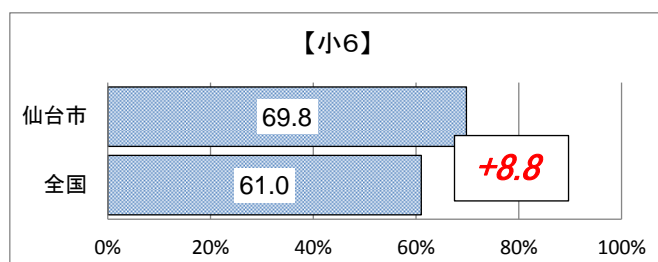
□指導改善の方策

- ・ 今後とも学校が積極的に家庭や地域と連携しながら、児童生徒により豊かな体験活動等の機会を提供するなど地域や社会に関心を高められるような教育実践を積み重ねていく。
- ・ 地域行事等への参加をより促し、地域の方との触れ合いを通して、感謝の気持ちや人の役に立つことの大切さを実感させるなどし、豊かな心を育てていく。

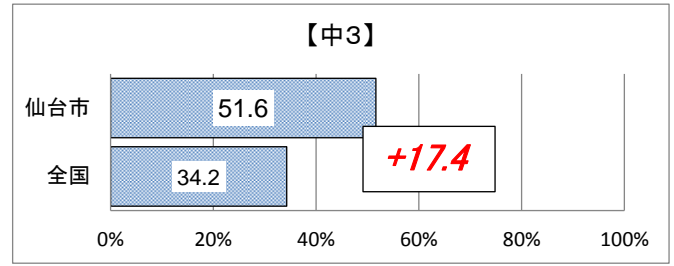
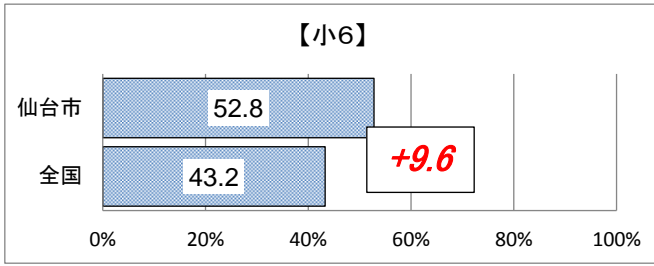
【分析結果 2】

家で、自分で計画を立てて勉強をしたり、学校の授業の予習や復習をしたりしている児童生徒の割合が高い。

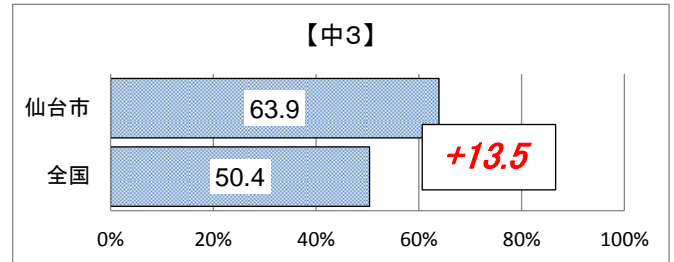
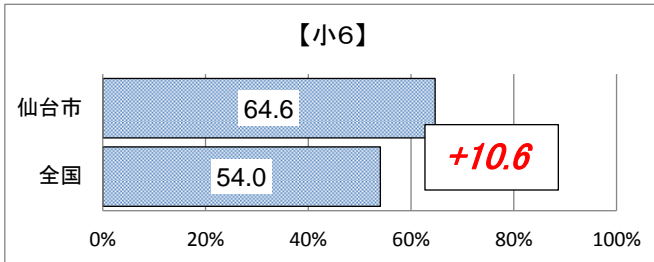
21. 家で、自分で計画を立てて勉強している



2.3. 家で、学校の授業の予習をしている



2.4. 家で、学校の授業の復習をしている



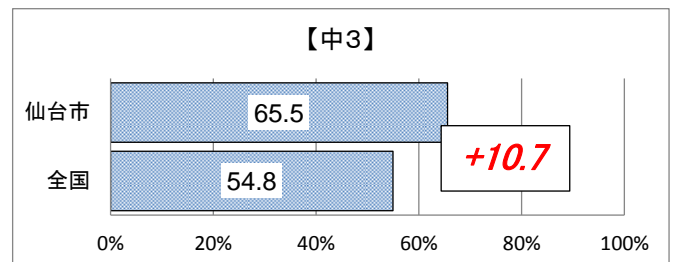
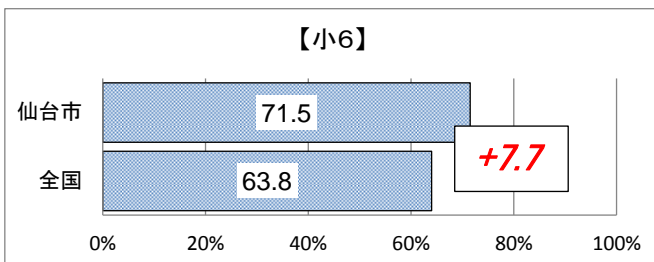
□指導改善の方策

- ・ 家庭学習においては、宿題などの決められた課題に取り組むのに加えて、発達段階に応じて、授業内容の予習や復習、興味をもったことなどについても、自分で計画を立てて、工夫して取り組めるよう指導していく。
- ・ 家庭学習の習慣がしっかりと身に付いていない児童生徒も見られることから、学習の方法を指導し、学校と家庭が連携協力しながら、家庭学習の習慣化をさらに図っていく。

【分析結果 3】

「総合的な学習の時間」において、自分で課題を立てて情報を集めて整理したり、調べたことを発表したりする学習活動に取り組んでいる児童生徒の割合が高い。

4.0. 「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集めて整理したり、調べたことを発表したりする活動に取り組んでいると思う



□指導改善の方策

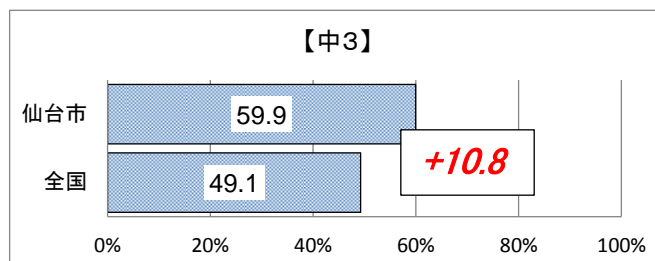
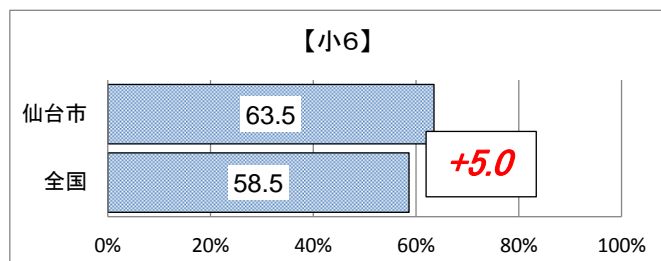
- ・ 「総合的な学習の時間」が、思考力や表現力など応用力の育成につながることから、今後とも他者と協同で問題解決する学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動を充実させていく。
- ・ 問題の解決や探究活動に、主体的に協同して取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにするよう、「総合的な学習の時間」の学習内容を見直し、改善を図っていく。

【分析結果 4】

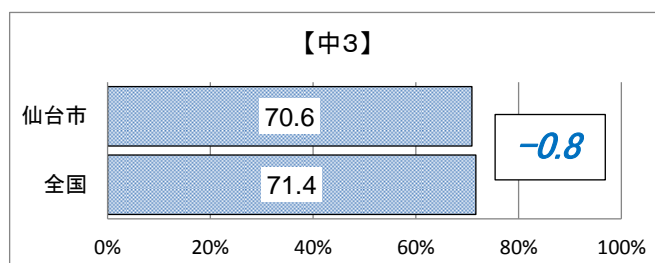
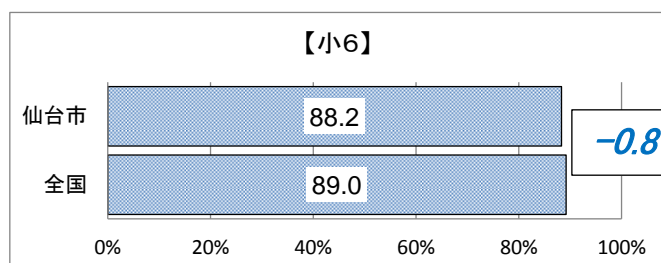
国語では、意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している児童生徒の割合が高い。

算数・数学では、学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと思っている児童生徒の割合が全国と同程度である。

56. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している



68. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う



□指導改善の方策

- ・ 国語においては、自分の考えをより豊かに伝えることができるように、自分の考えを広げたり深めたりする指導や事実と感想、意見などを区別して捉えることができるようにする指導を、更に工夫していく。
- ・ 算数・数学においては、実生活との関連を図る指導や学習したことが将来、どんな場面で役に立つかについて伝えるなど、学習したことと生活のつながりを意識できるよう、授業改善を図っていく。

平成26年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙調査の分析結果

〈社会に対する興味・関心〉

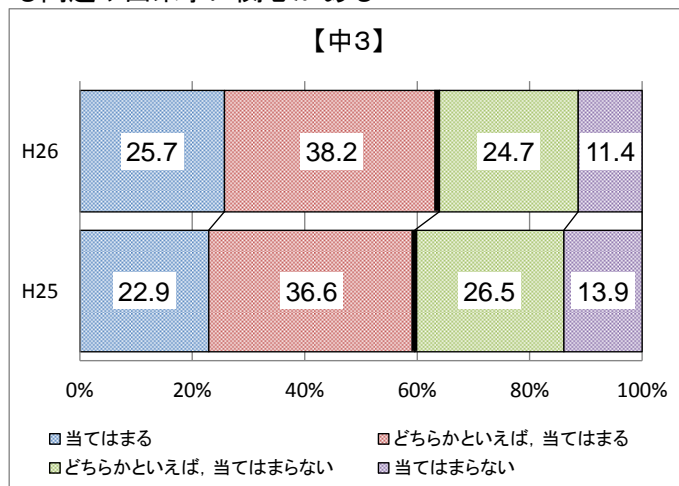
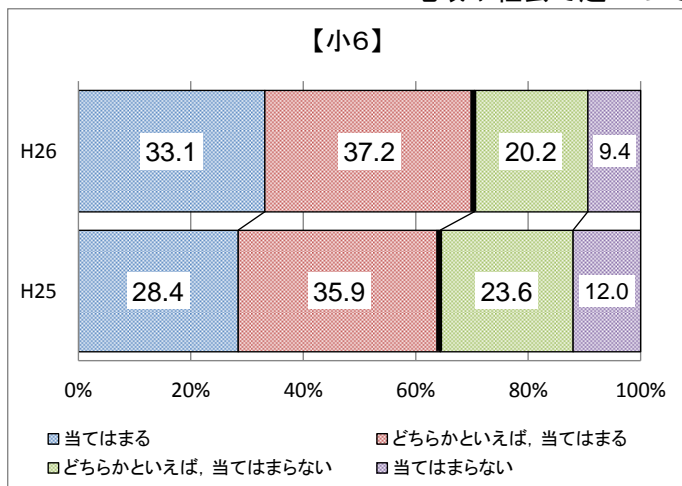
○ 以下と回答している児童生徒の割合は、昨年度に比べやや高くなっている

- ・ 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある（30）
- ・ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある（31）

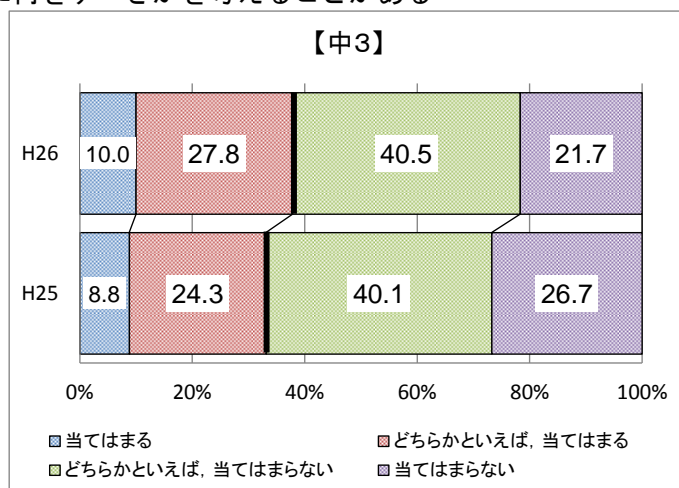
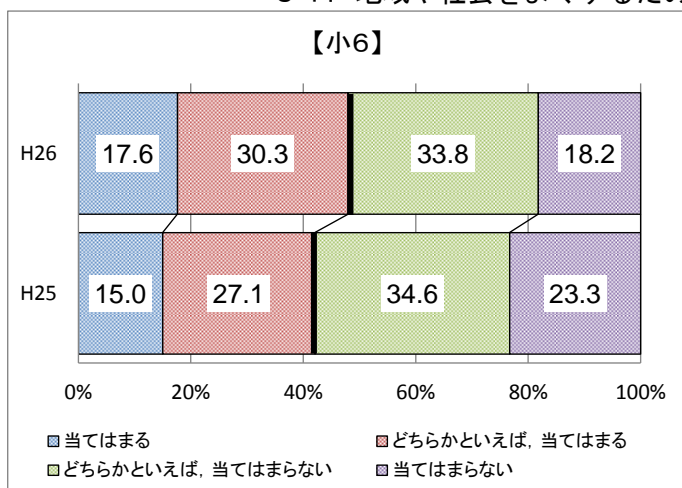
◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国と比べて大きく上回っている

○経年比較

30. 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある

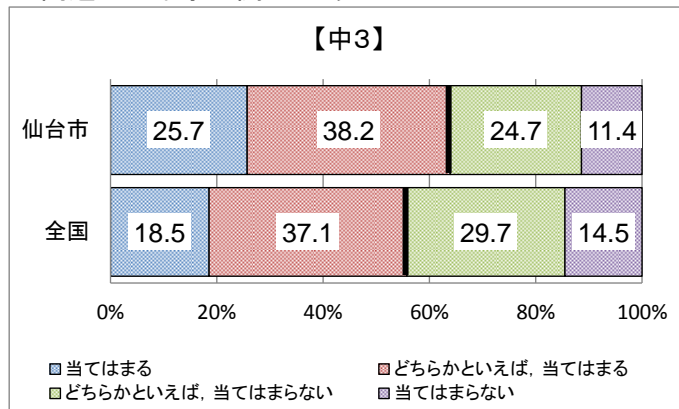
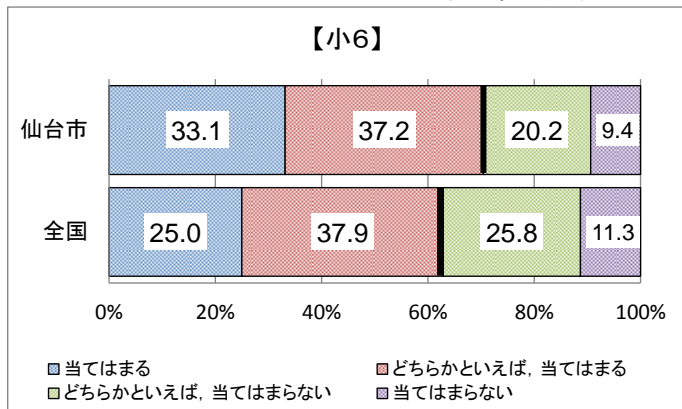


31. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある

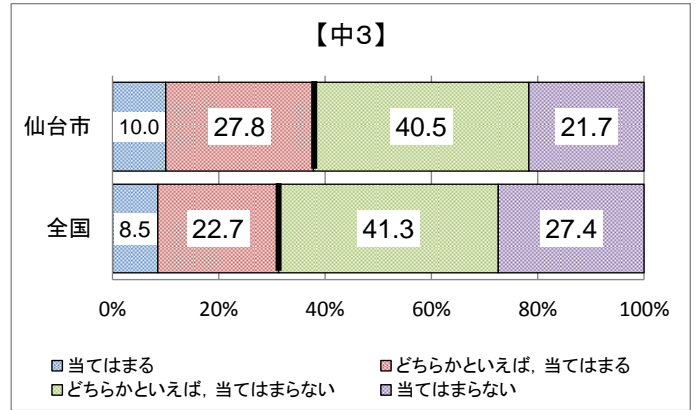
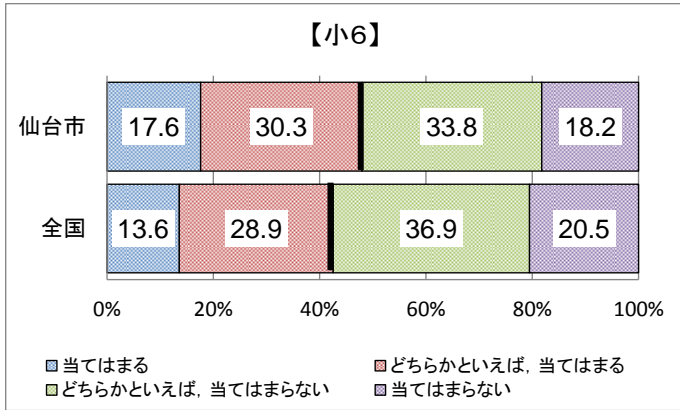


◇全国との比較（26年度）

30. 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



3 1. 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある



〈家庭学習〉

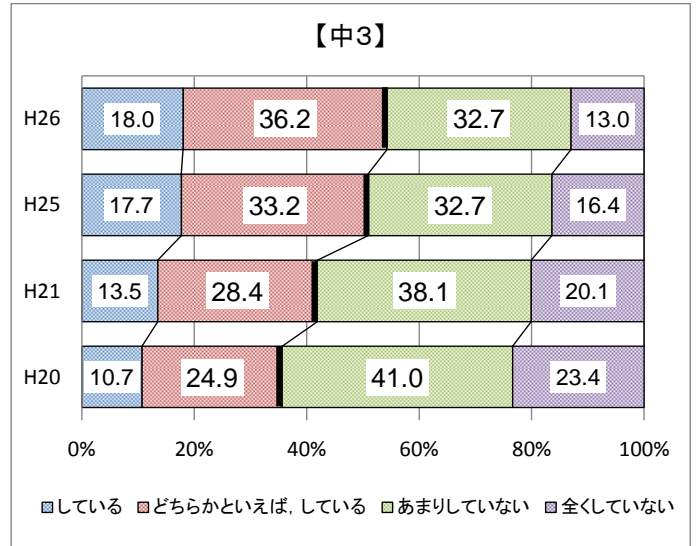
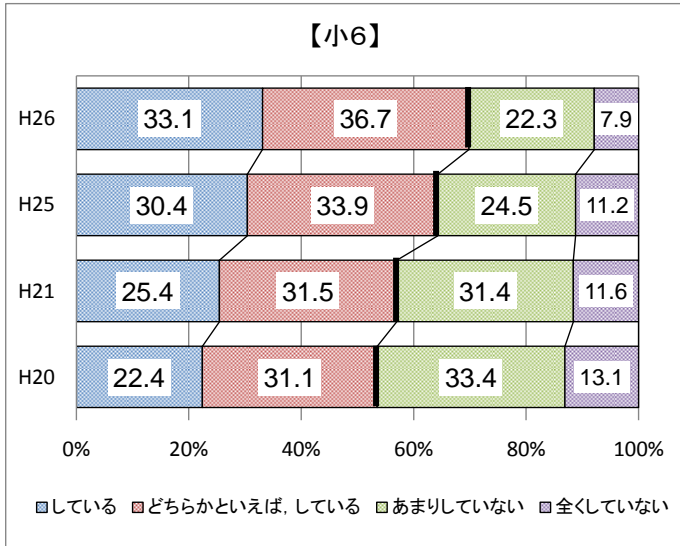
○ 家庭での学習について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる

- ・ 家で、自分で計画を立てて勉強している (21)
- ・ 家で、学校の授業の予習をしている (23)
- ・ 家で、学校の授業の復習をしている (24)

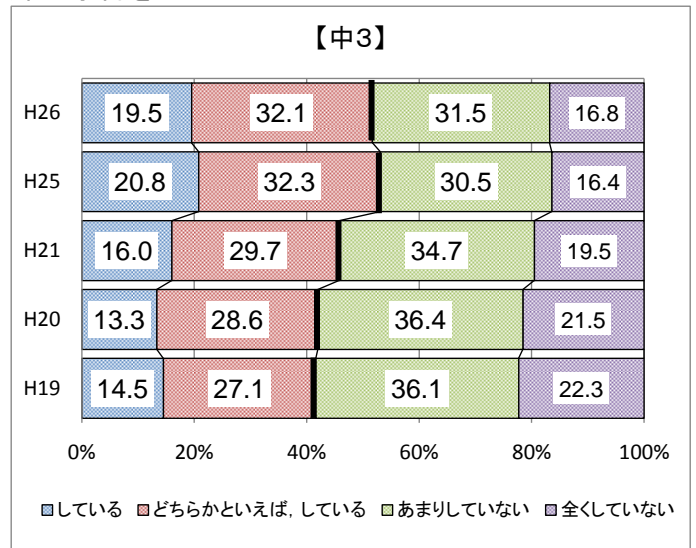
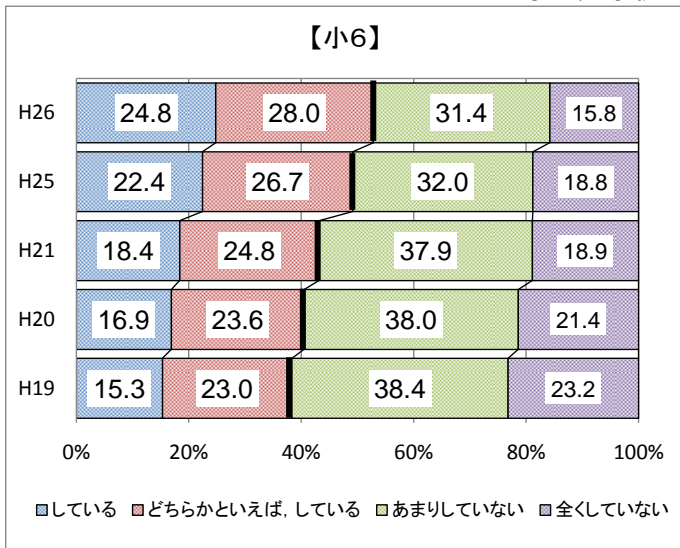
◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国と比べて大きく上回っている

○経年比較

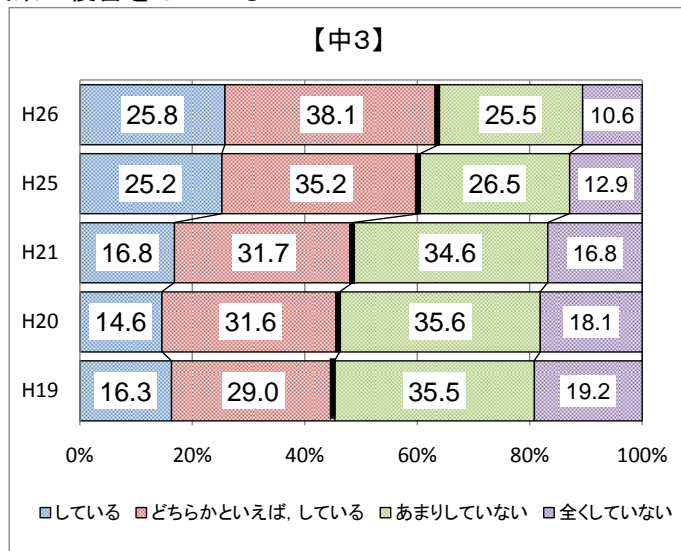
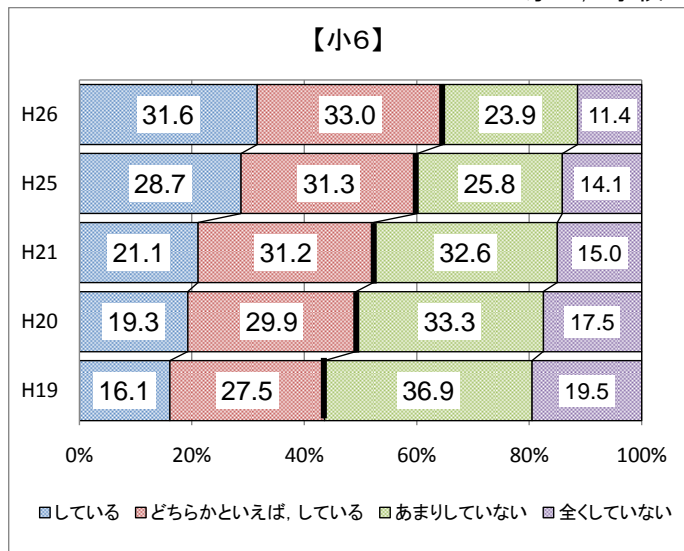
2 1. 家で、自分で計画を立てて勉強している



2 3. 家で、学校の授業の予習をしている

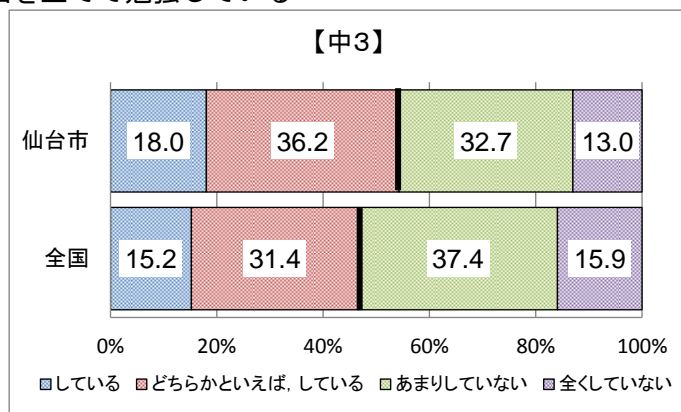
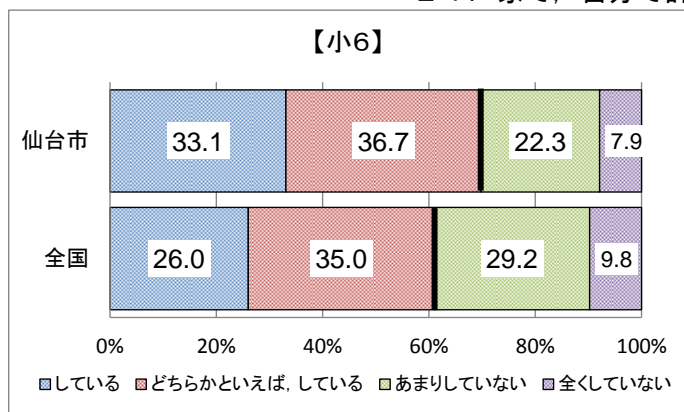


2 4. 家で、学校の授業の復習をしている

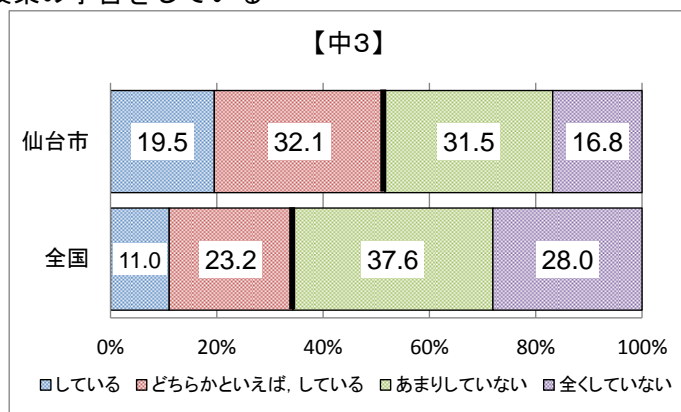
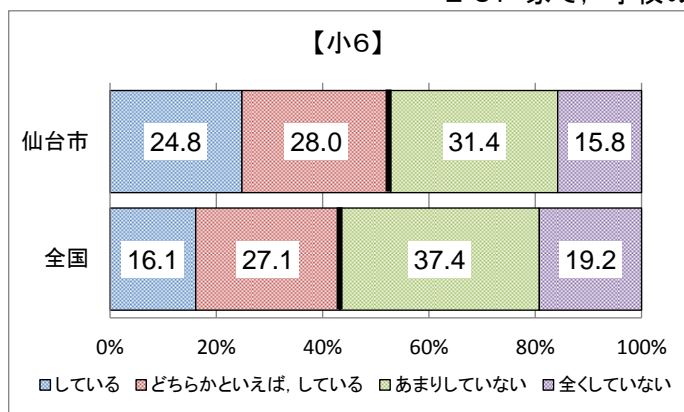


◇全国との比較（26年度）

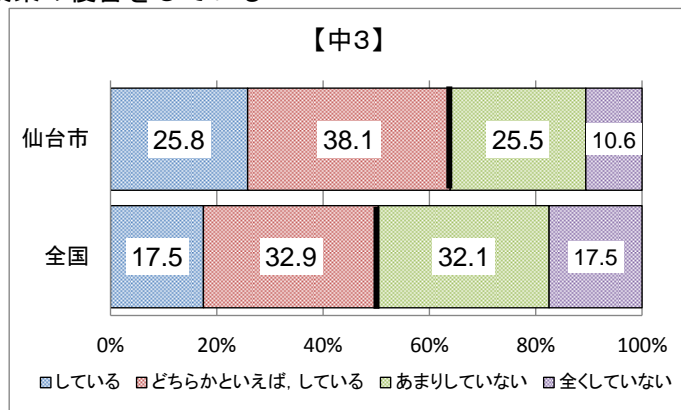
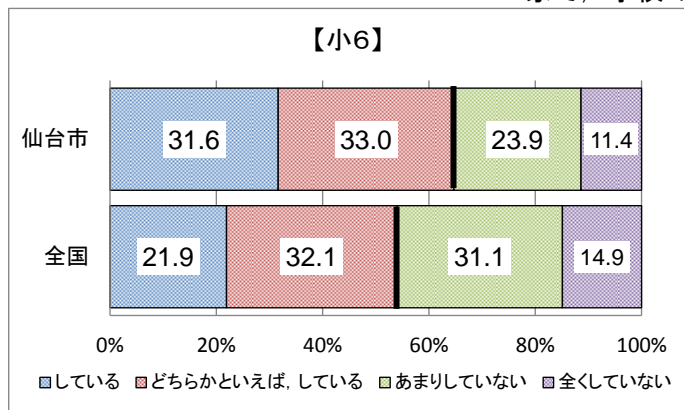
2 1. 家で、自分で計画を立てて勉強している



2 3. 家で、学校の授業の予習をしている



2 4. 家で、学校の授業の復習をしている

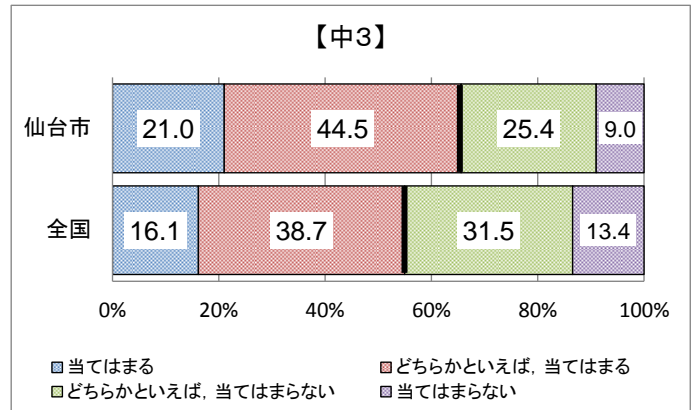
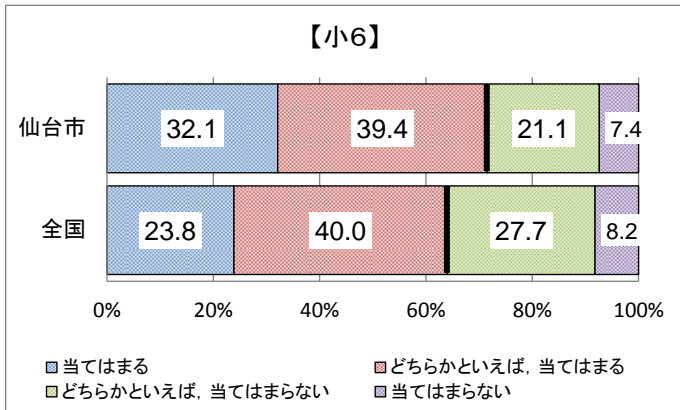


〈総合的な学習の時間〉

◇ 「総合的な学習の時間」について、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると回答した割合は、小中学校ともに全国を大きく上回っている（40）

◇全国との比較（26年度）

40.「総合」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表したりするなどの学習活動に取り組んでいる



〈国語の学習〉

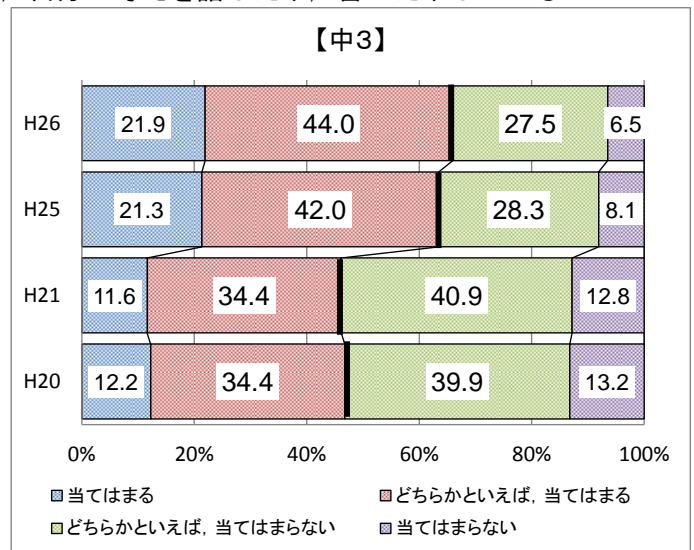
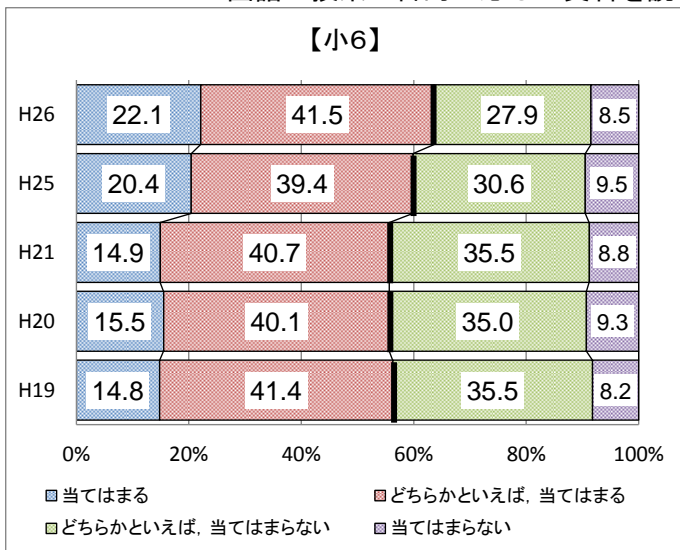
○ 国語の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる

- ・ 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている（55）
- ・ 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している（56）
- ・ 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている（57）

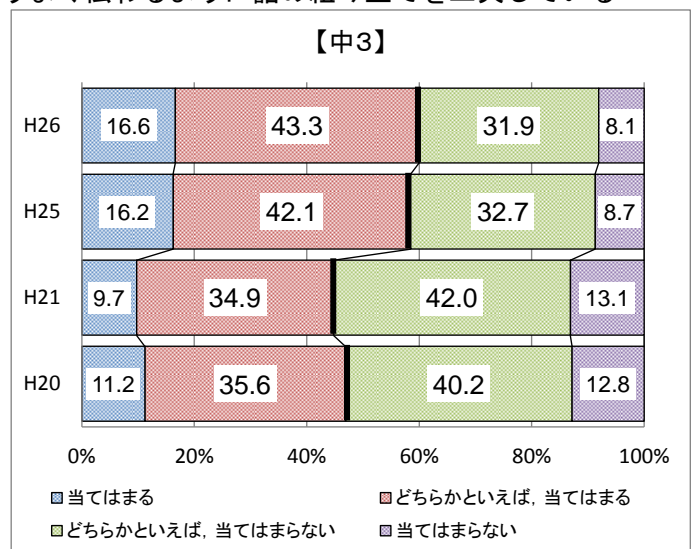
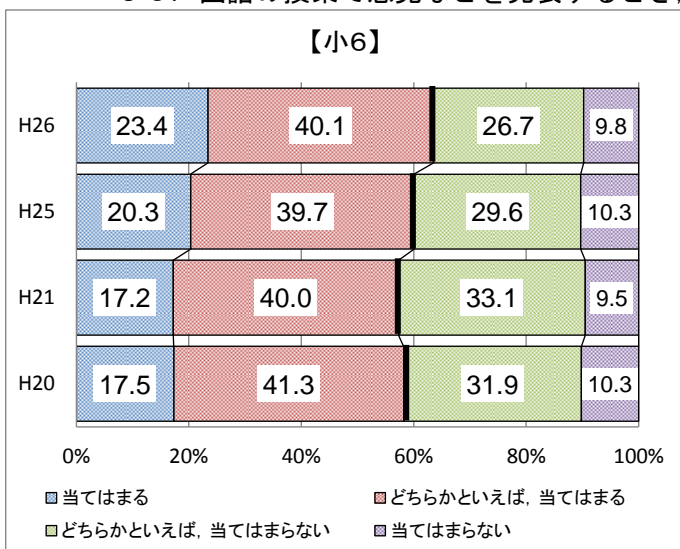
◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国を上回っており、特に中学校では大きく上回っている

○経年比較

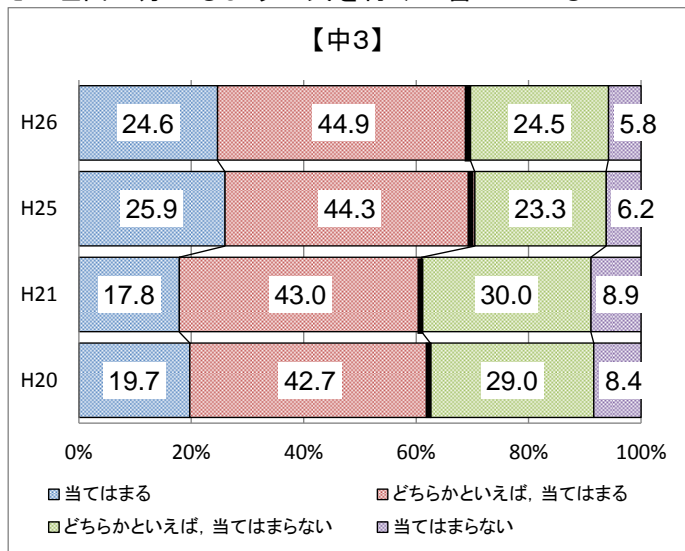
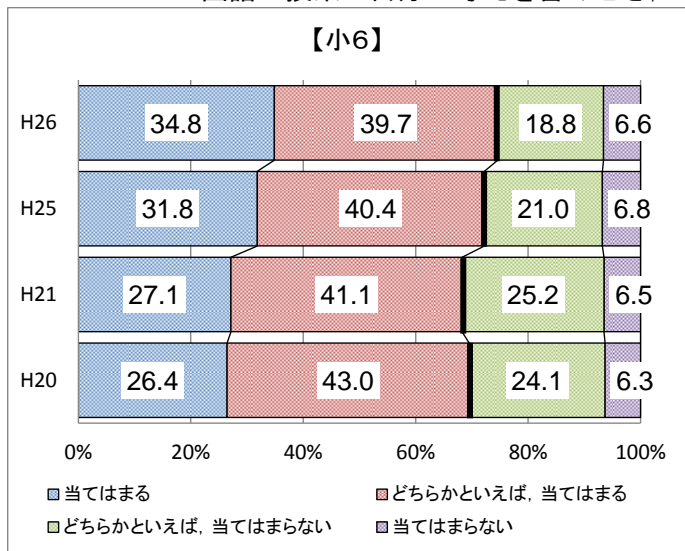
55. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



56. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝えるように話の組み立てを工夫している

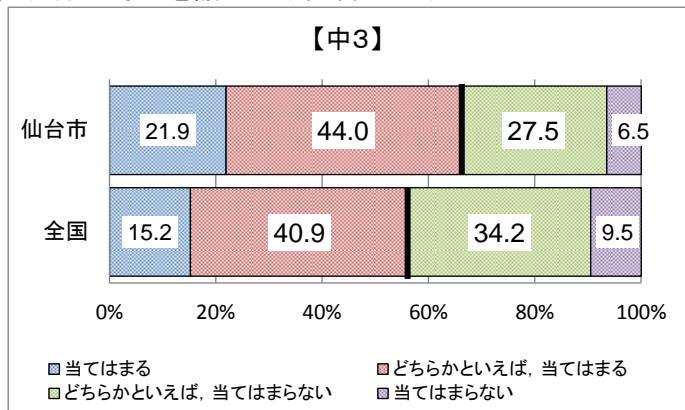
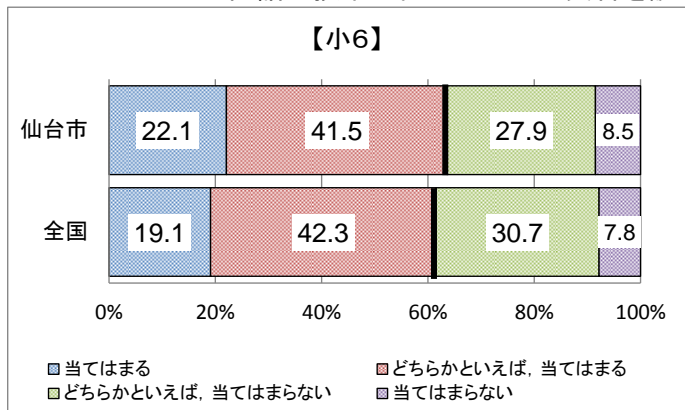


5 7. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている

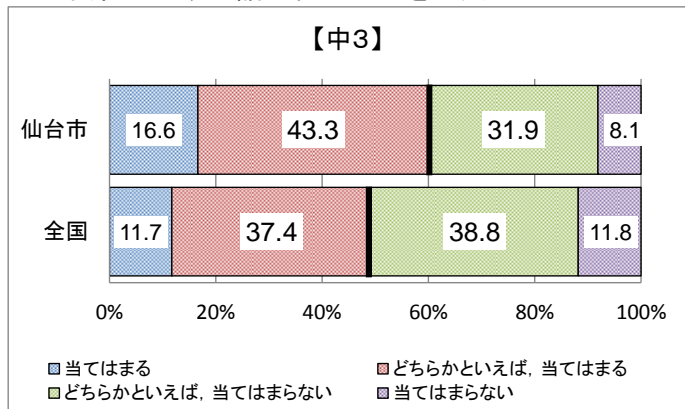
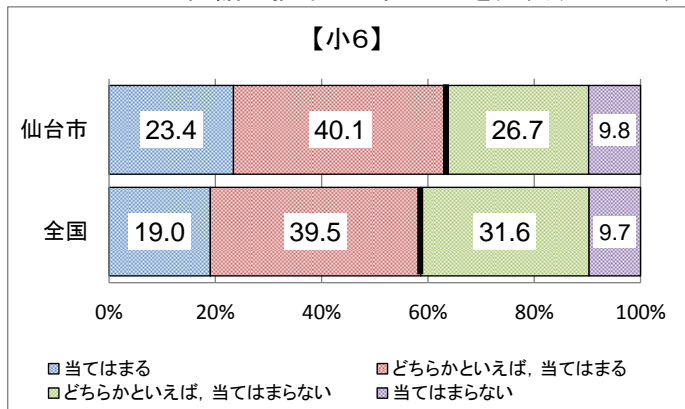


◇全国との比較（26年度）

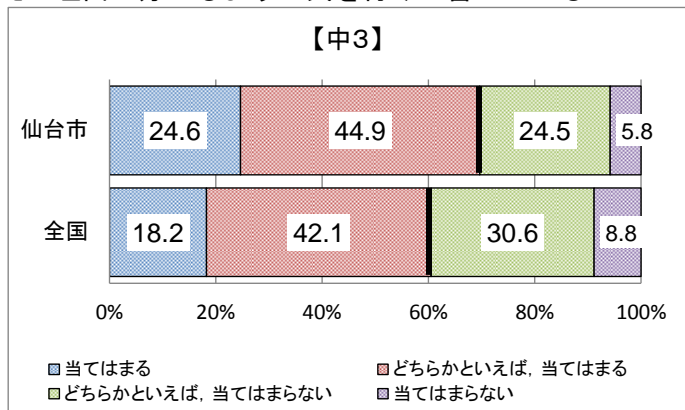
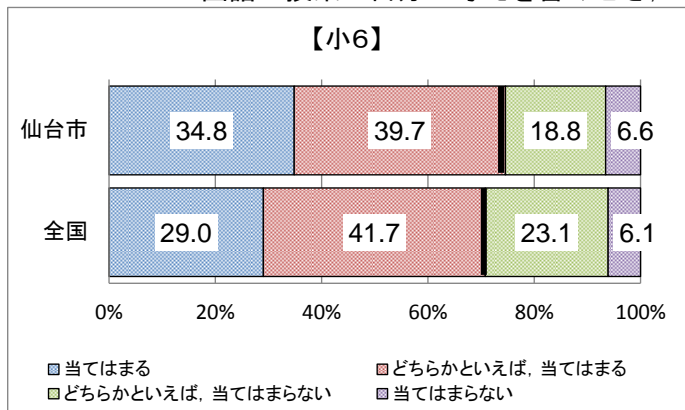
5 5. 国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしている



5 6. 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している



5 7. 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている

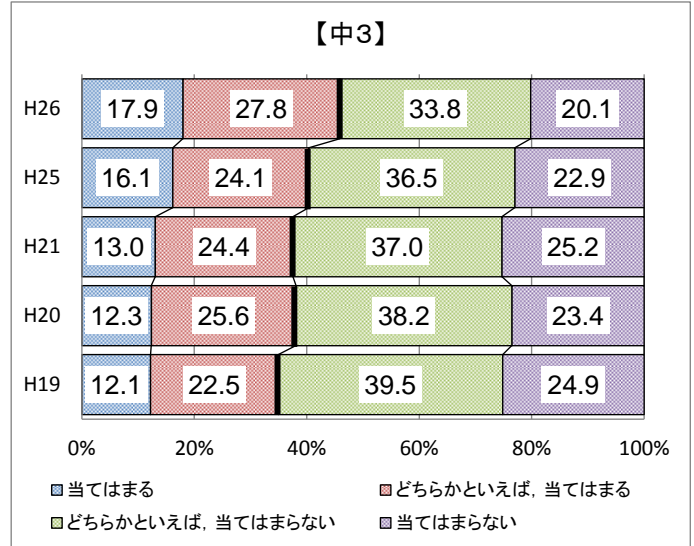
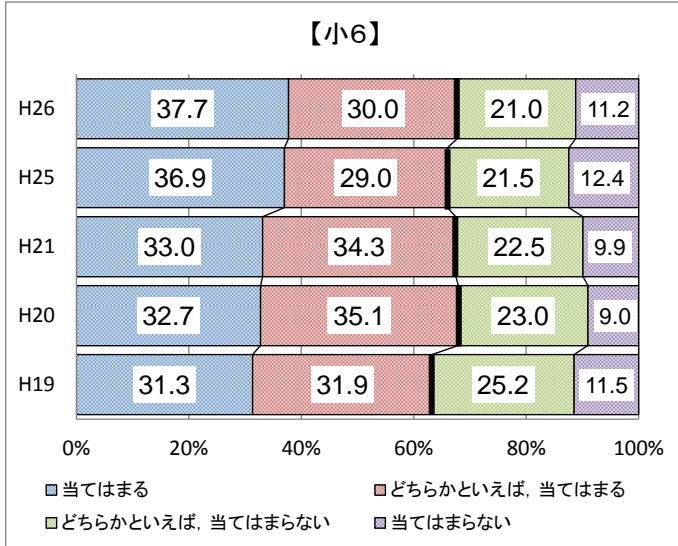


〈算数・数学の学習〉

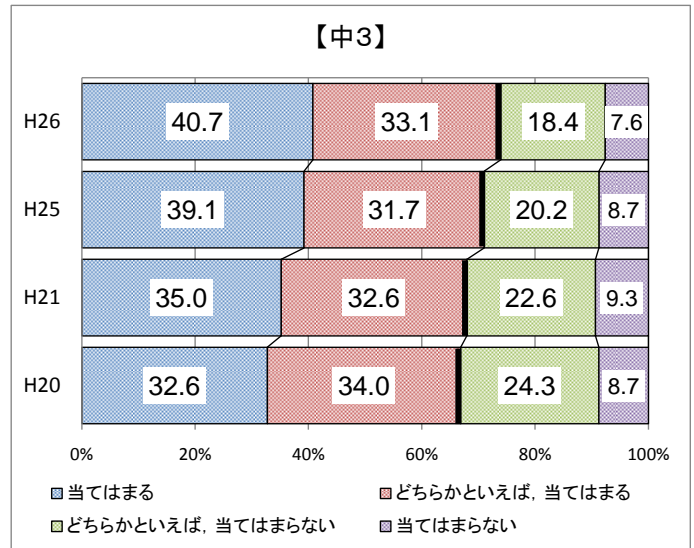
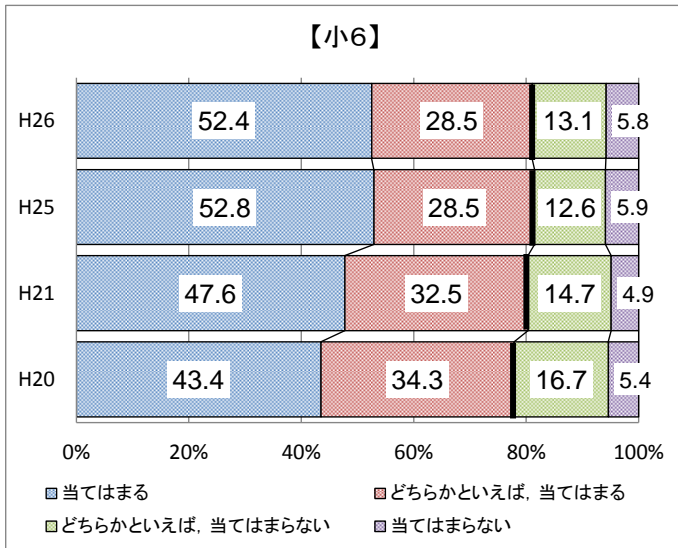
- 算数・数学の授業について、以下と回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる
 - ・算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える（67）
 - ・算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える（69）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国をやや上回っている
- 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと回答している児童生徒の割合は、調査開始以来、大きな変化は見られない。（68）
- ◇ 上記の項目について、小中学校ともに全国をやや下回っている

○経年比較

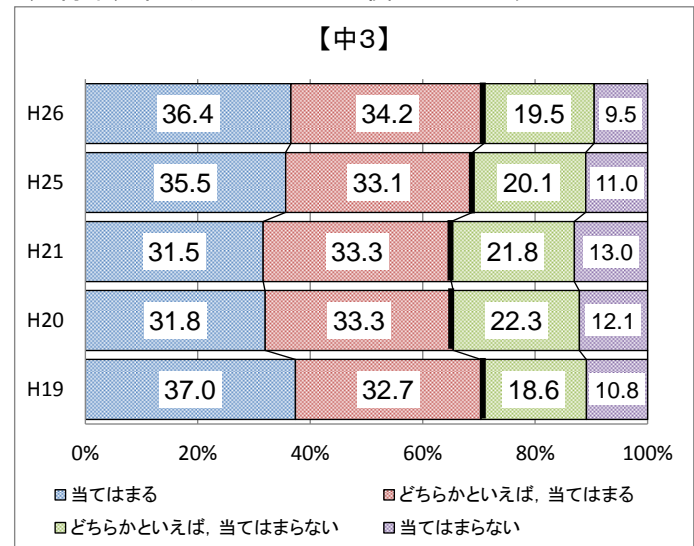
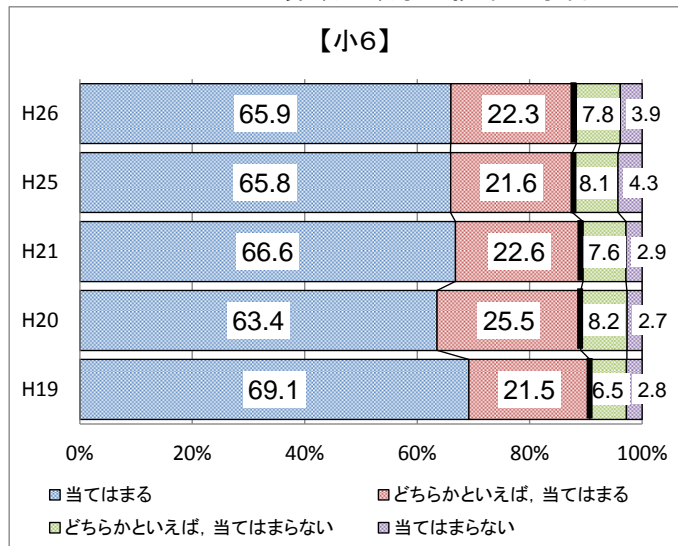
67. 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



69. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える

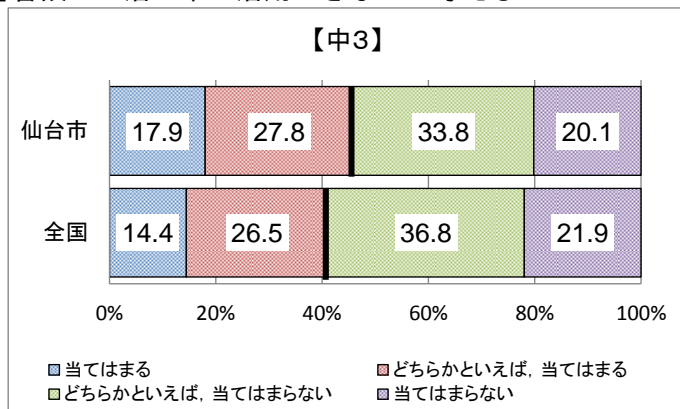
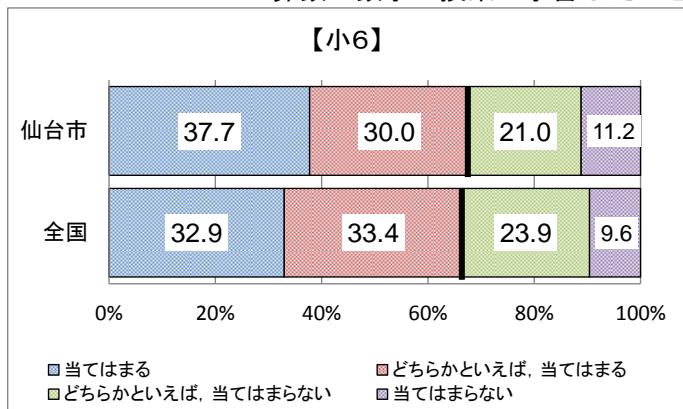


68. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う

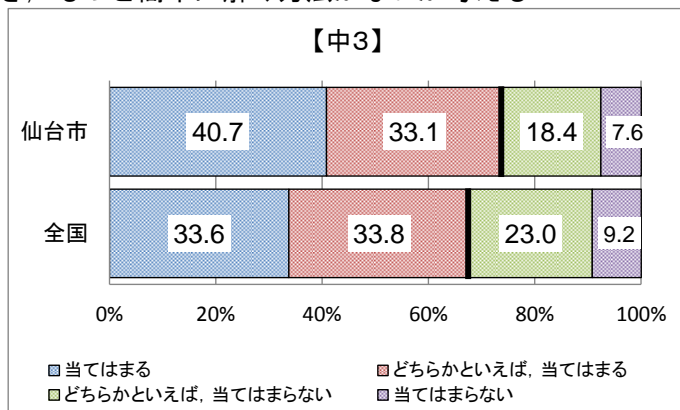
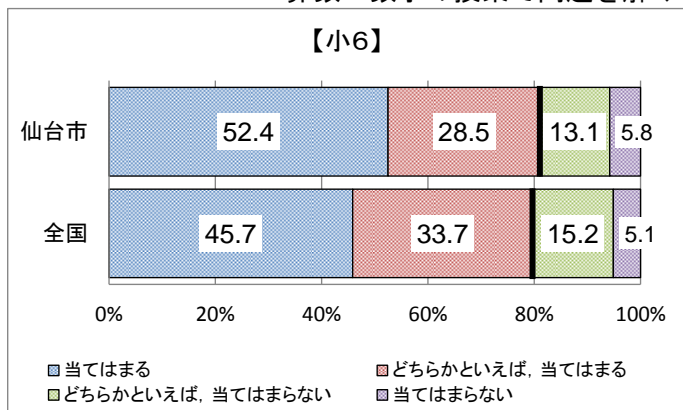


◇全国との比較（26年度）

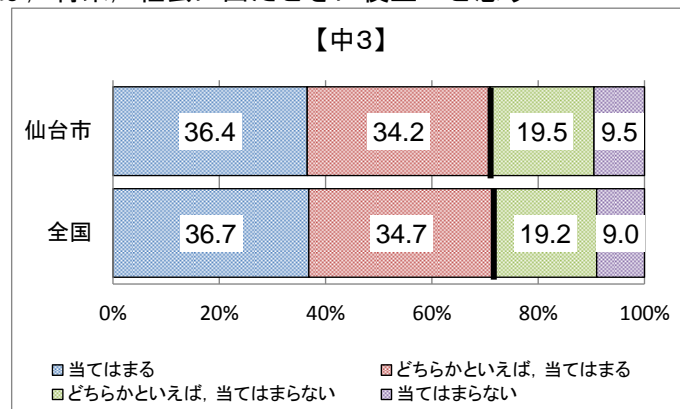
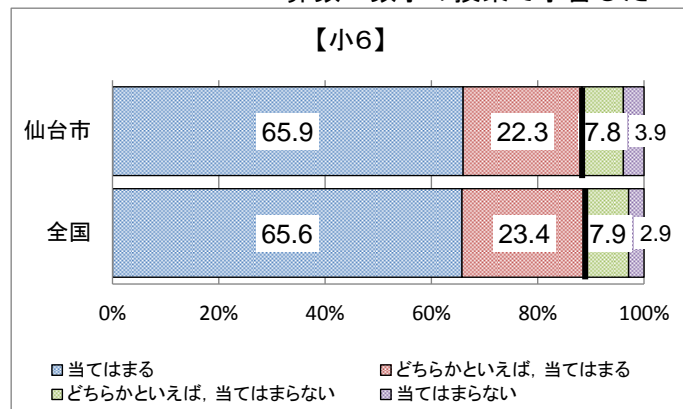
67. 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



69. 算数・数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考える



68. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役立つと思う

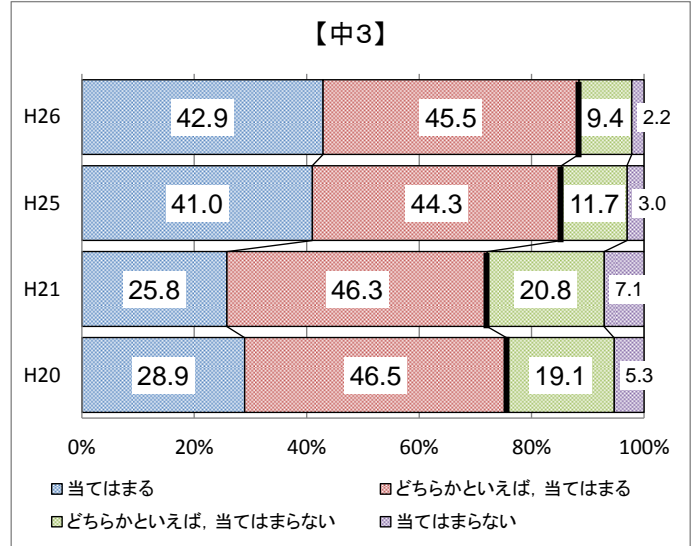
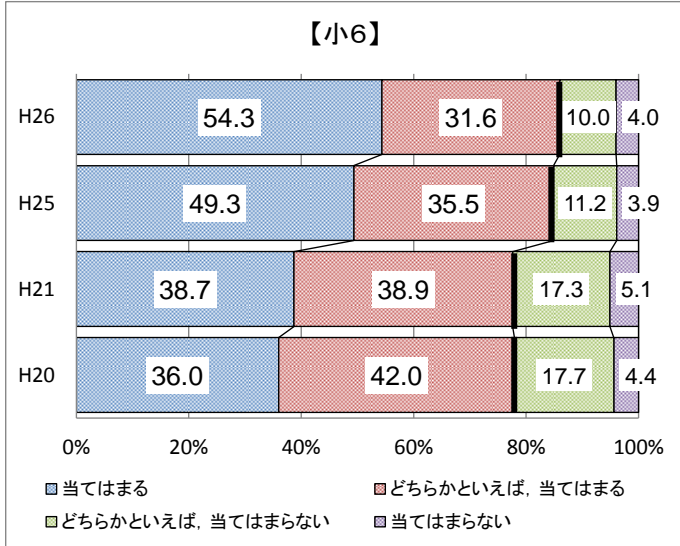


〈言語活動〉

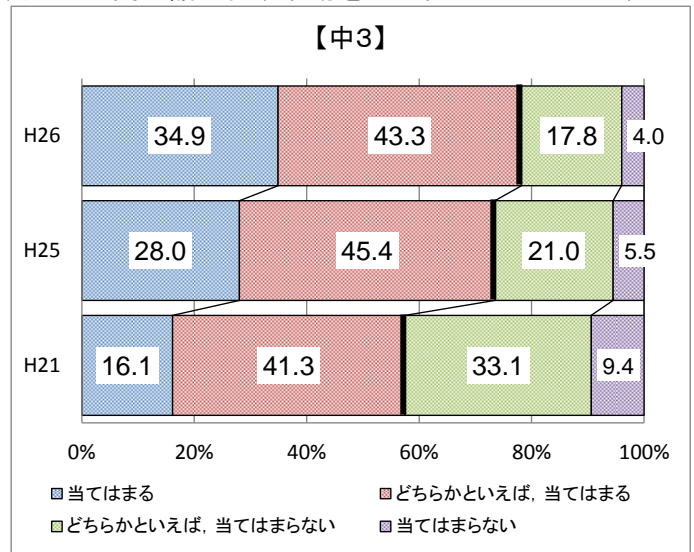
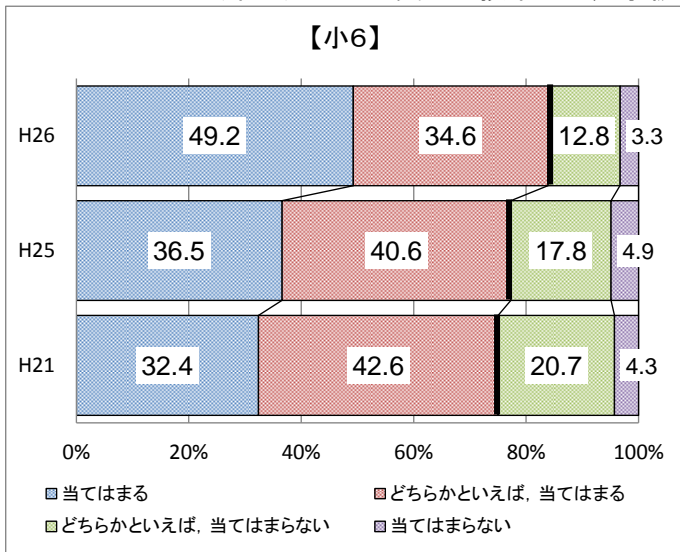
- 小学校5年生（中学校2年生）までに受けた授業について、以下と回答している児童生徒の割合は年々増加している傾向がうかがえる
 - ・自分の考えを発表する機会が与えられていた（42）
 - ・学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていた（43）
- ◇ 友達の前で自分の考えや、意見を発表することが得意と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同程度である（7）

○経年比較

42. 小5（中2）までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う

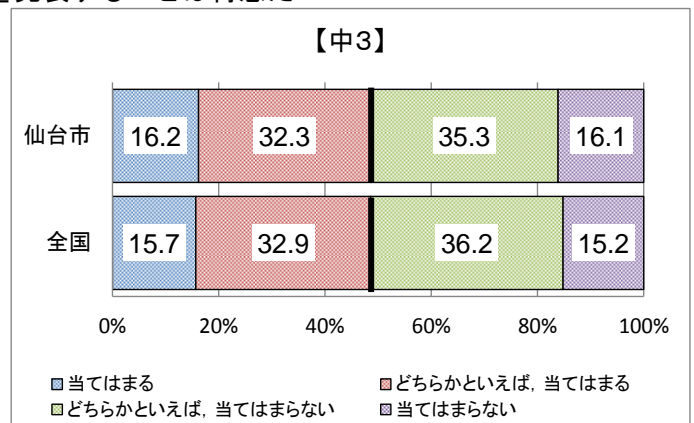
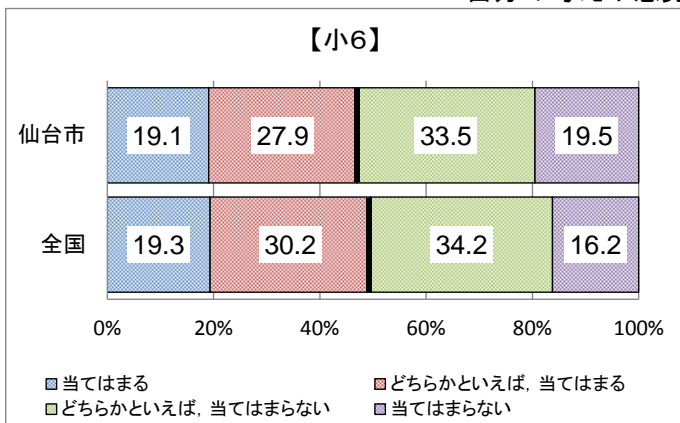


43. 小5（中2）までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う



◇全国との比較（26年度）

7. 自分の考えや意見を発表することは得意だ

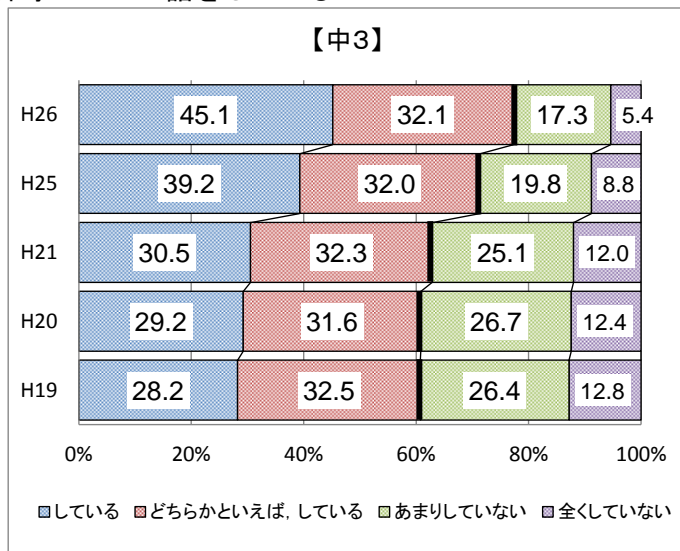
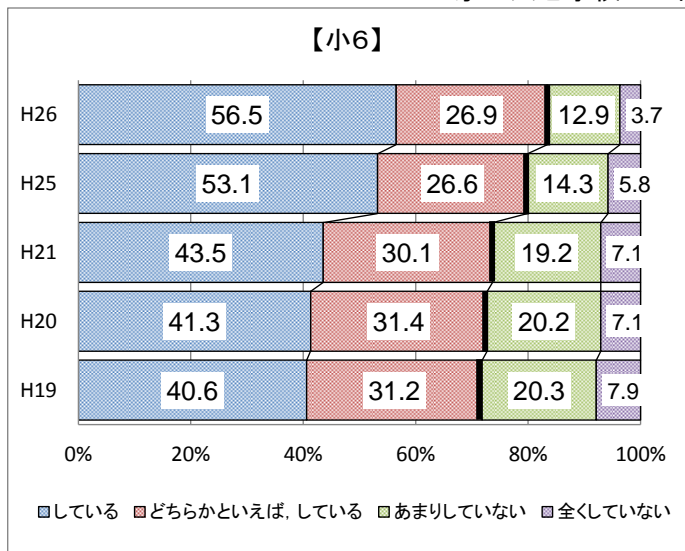


〈家庭でのコミュニケーション等〉

- 家の人と学校での出来事について話をしていると回答している児童生徒の割合は、年々増加している傾向がうかがえる（19）
- ◇ 家の方は授業参観や運動会などの学校の行事に来ると回答している割合は、全国と比べて小学校ではやや高いが、中学校では低い。また、よく来ると回答した割合は、中学校では小学校の半数以下である（20）

○経年比較

19. 家の人と学校での出来事について話をしている



◇全国との比較（26年度）

20. 家の方は、授業参観や運動会などの学校の行事に来る

